

本庄市の概況（各統計データ等）について

第 1 節 本庄市全体の状況

（１）人口の推移と推計

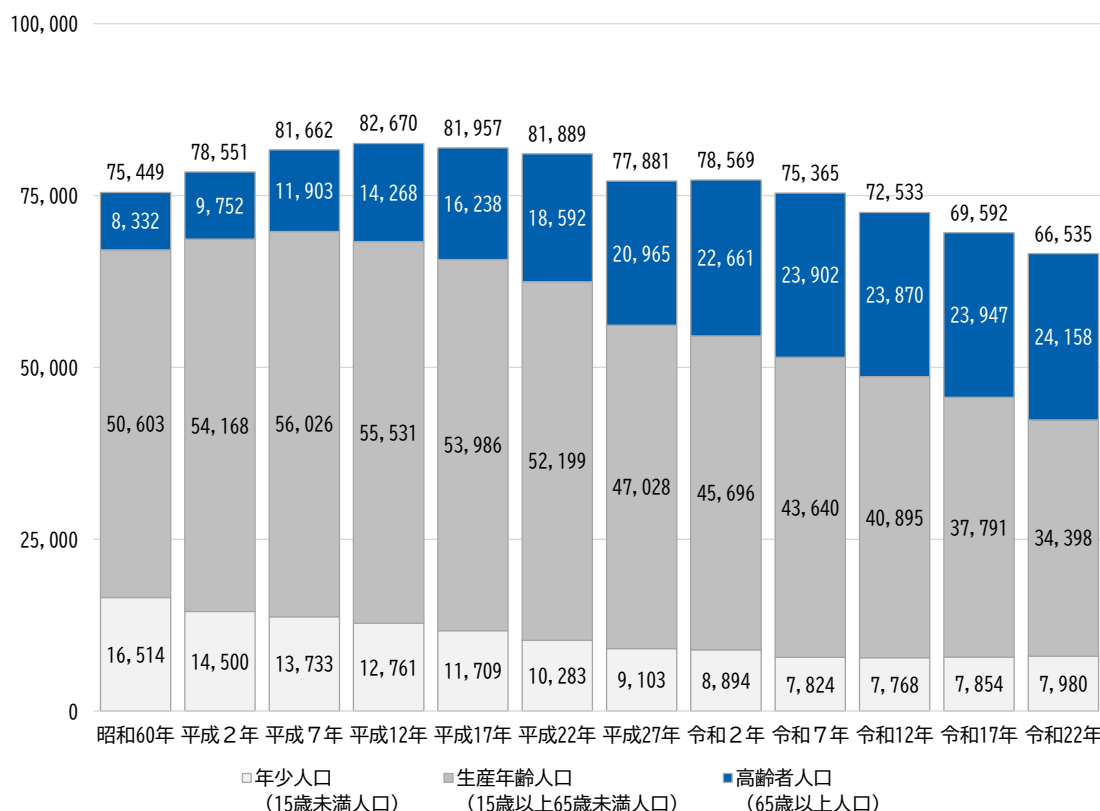
本市の人口は、平成12年の82,670人をピークとして減少に転じており、平成27年に8万人台を割り込みました。

また、本市の将来人口の見通しを示す本庄市人口ビジョンでは、今後も人口減少が継続すると見込んでおり、令和22年の人口は66,535人と推計しています。

年齢3区分別人口を見ると、年少人口及び生産年齢人口は減少傾向が長期的に継続しているのに対し、高齢者人口は増加が続いており、平成27年には2万人を超え、令和22年には24,158人になると推計しています。

図表 本庄市における人口の推移と推計

単位：人



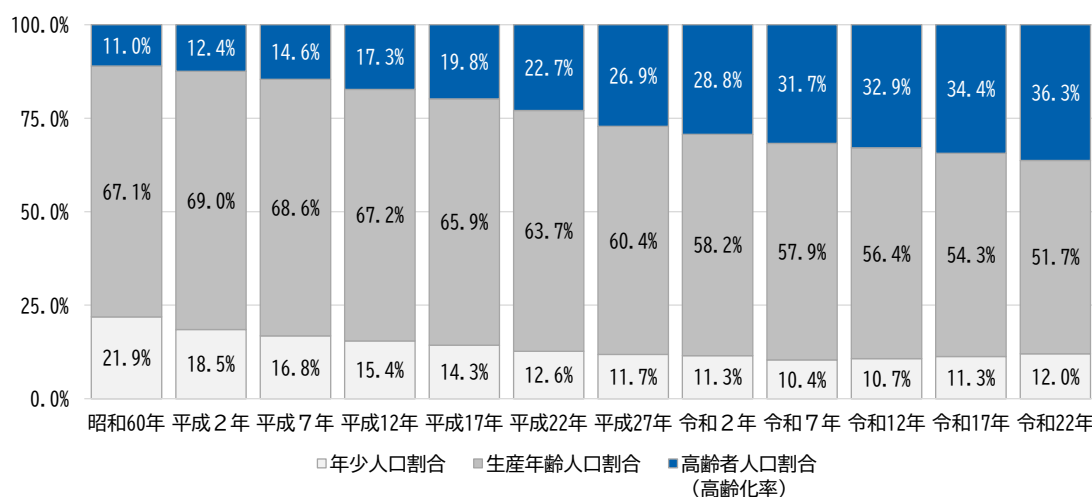
資料：総務省「国勢調査」（令和2年以前）
本庄市「人口ビジョン」（令和7年以降）

（注）推計上、年少人口、生産年齢人口、高齢者人口の和が総人口に一致しないことがあります。

年齢3区分別人口について、それぞれの割合の推移と推計を見ると、少子高齢化が進んでいることがわかります。

令和7年には高齢化率が3割を超え、令和17年には市民の3人に1人以上が高齢者となることを見込まれています。

図表 本庄市における3区分別人口割合の推移と推計



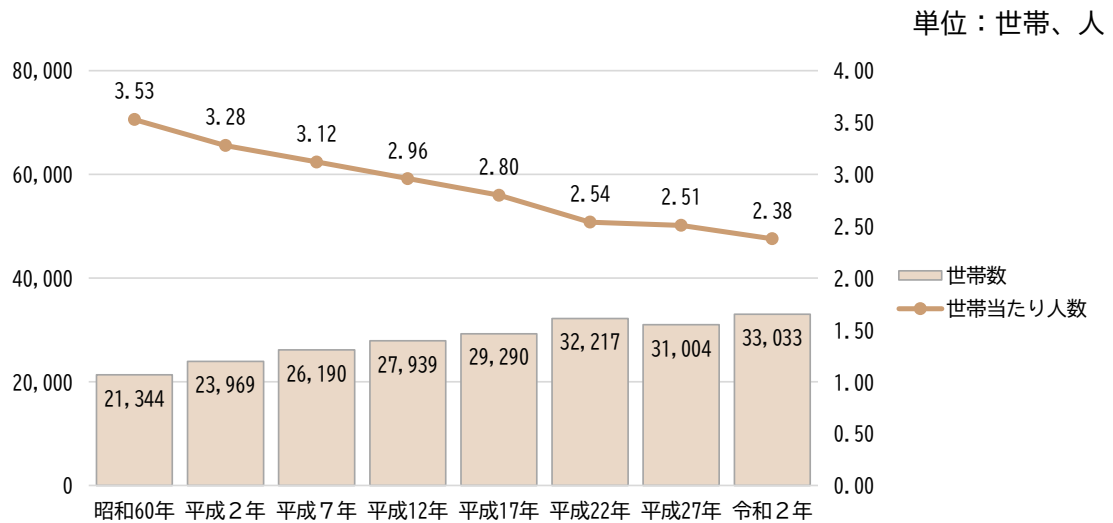
資料：総務省「国勢調査」（令和2年以前）
本庄市「人口ビジョン」（令和7年以降）

（注）端数処理等により、年少人口割合、生産年齢人口割合、高齢者人口割合の和は必ずしも100.0%とはならないことがあります。

(2) 世帯数の推移

本市の世帯数の推移を見ると、増加傾向が続いており、平成22年に3万世帯を突破しました。人口減少と世帯数の増加が同時に進んでいるため、世帯当たり人数は減少傾向にあります。昭和60年の世帯当たり人数は3.53人でしたが、令和2年には2.38人となっており、核家族化や独居世帯の増加が続いていることがわかります。

図表 世帯数と世帯当たり人数の推移



資料：総務省「国勢調査」

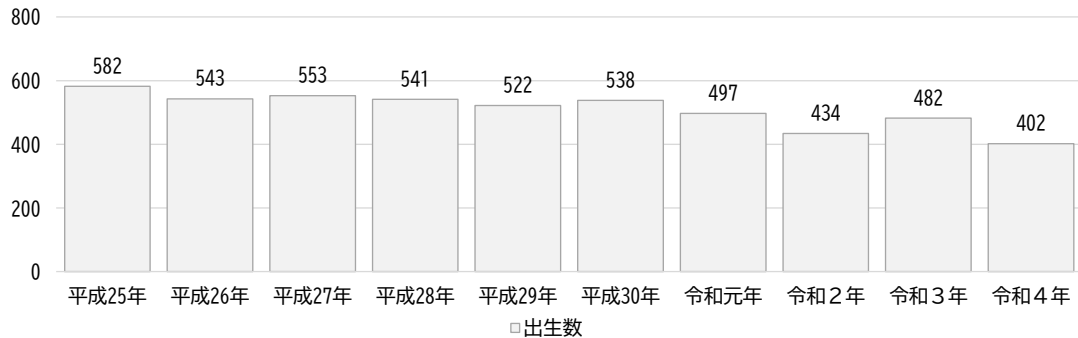
(3) 子どもの状況

① 出生数の推移

過去10年間にける出生数を見ると、減少傾向が続いており、令和4年には402人となっています。

図表 出生数の推移

単位：人



資料：市民課「世帯人口等一覧」

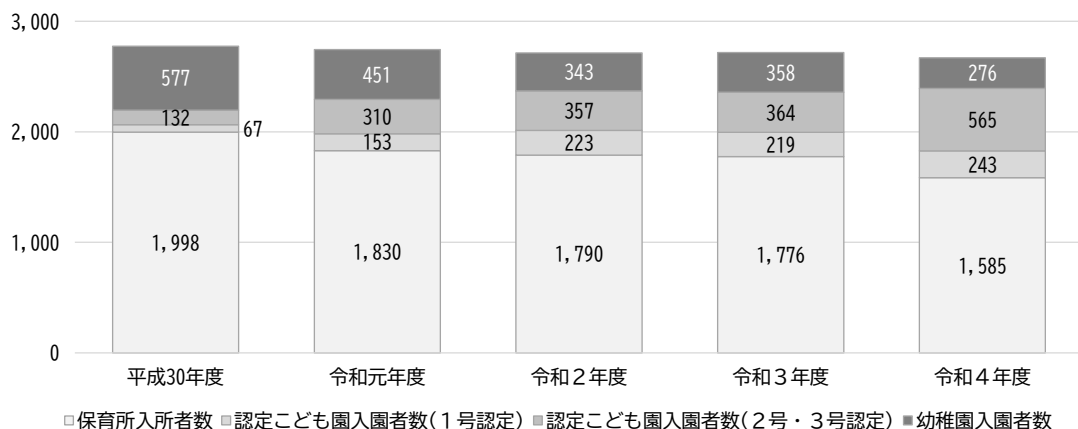
② 保育所・幼稚園・認定こども園利用者数の推移

市内では、平成29年度に認定こども園が整備されて以降、認定こども園の利用者が増加傾向にあります。令和4年度には1号（教育）認定が243人、2号・3号（保育）認定が565人となっています。

一方で、保育所及び幼稚園の利用者は減少傾向が続いており、保育所は令和4年度に1,585人と平成30年度（1,998人）の8割程度、幼稚園は令和4年度に276人と平成30年度（577人）の5割程度まで減少しています。

図表 保育所・幼稚園・認定こども園の利用者数の推移

単位：人



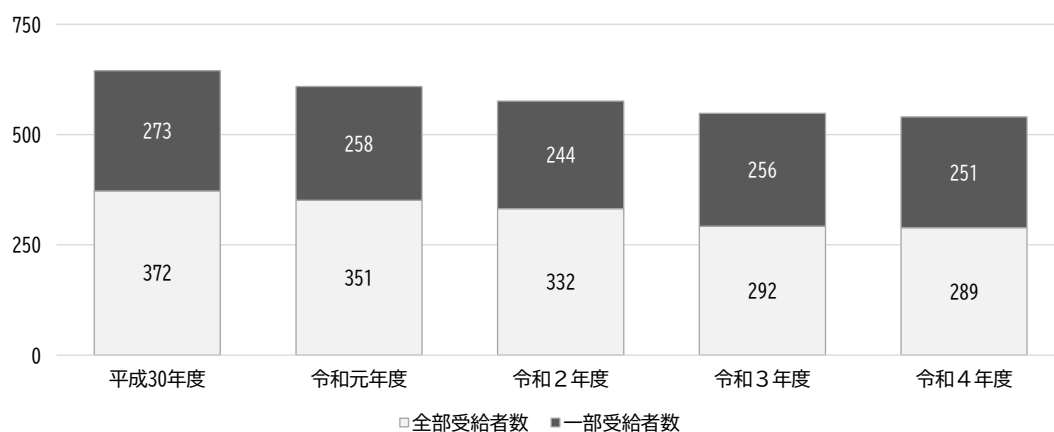
資料：保育課（各年度3月末日時点）

③ 児童扶養手当受給者数の推移

児童扶養手当受給者数は、少子化に伴い、減少傾向にあります。

図表 児童扶養手当受給者数の推移

単位：人



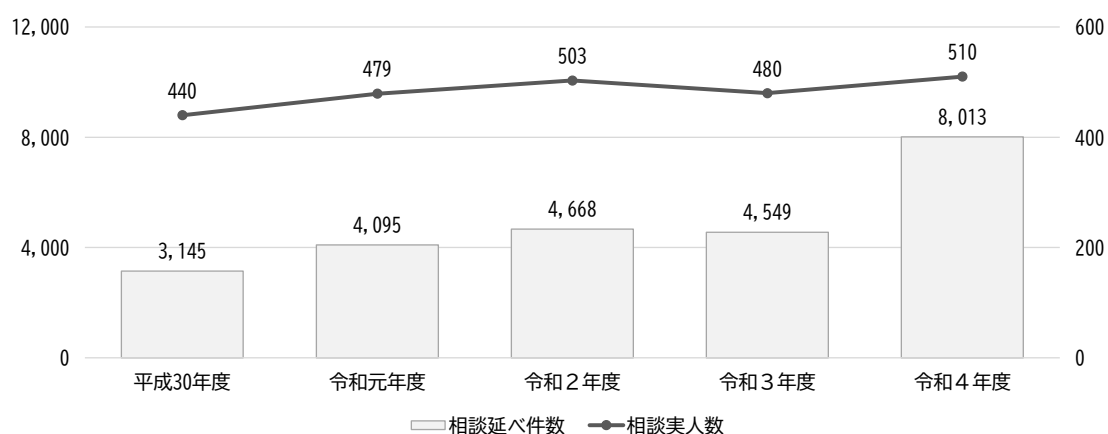
資料：子育て支援課（各年度3月末時点）

④ 家庭児童相談件数の推移

家庭児童相談件数、相談実人数はともに増加傾向にあり、令和4年度にはそれぞれ8,013件、510人となっています。

図表 児童扶養手当受給者数の推移

単位：件、人



資料：子育て支援課（各年度3月末時点）

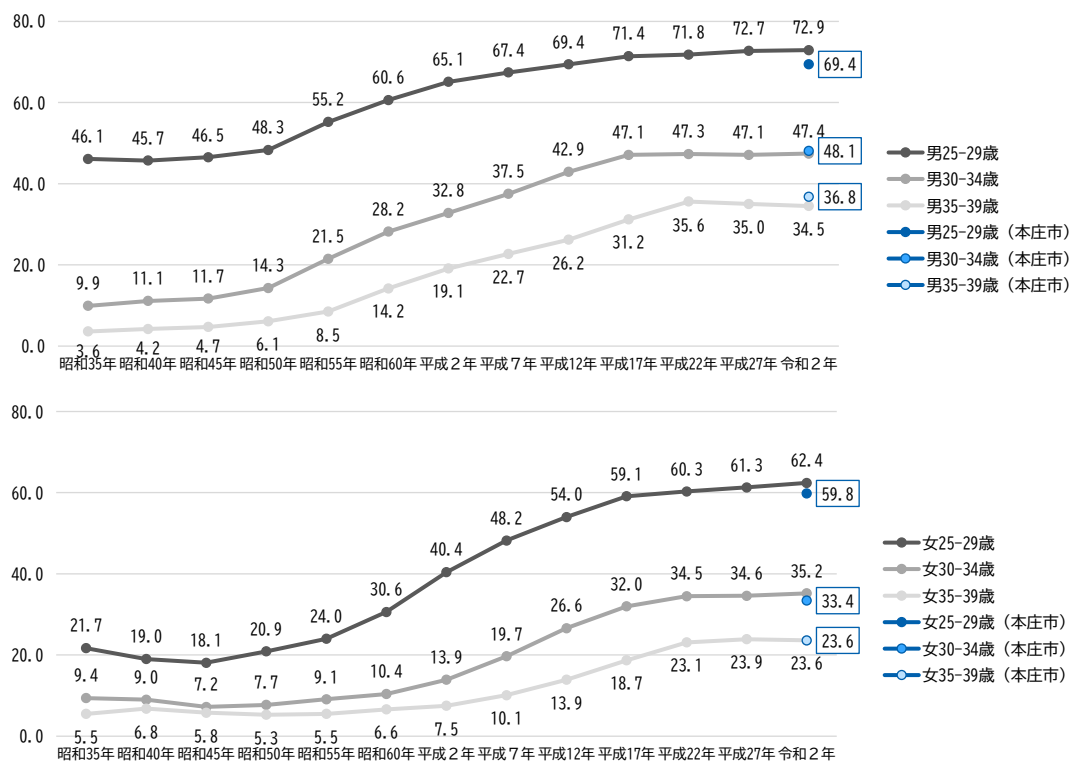
(4) 若者等の状況

① 未婚率の推移

令和2年の未婚率を年齢（5歳階級）別に見ると、30～34歳の男性の場合約2人に1人（47.4%）、30～34歳の女性の場合約3人に1人（35.2%）が未婚となっています。35～39歳の男女で見ると、男性は約3人に1人（34.5%）、女性は約4人に1人（23.6%）が未婚となっています。長期的に見ると未婚率は上昇傾向にあります。

図表 未婚率の推移

単位：％



資料：内閣府「令和4年版少子化社会対策白書」、総務省「国勢調査」

図表 本庄市における5歳階級別未婚率（令和2年度）

単位：％

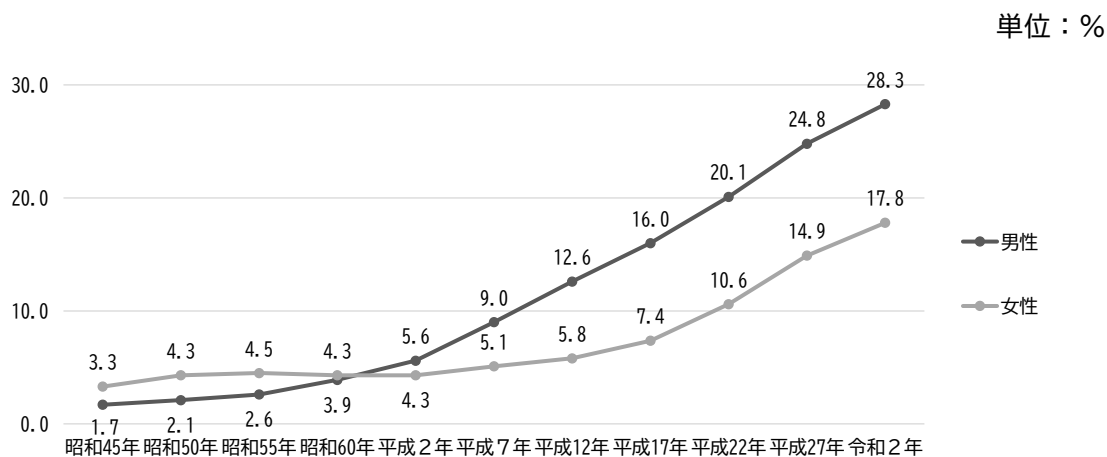
	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	50歳時の未婚割合
男性	69.4	48.1	36.8	32.2	29.7	26.1	27.9
女性	59.8	33.4	23.6	18.4	15.5	13.2	14.4

資料：総務省「国勢調査」

② 50歳時の未婚割合の推移

50歳時の未婚割合ⁱを見ると、昭和45年には男性1.7%、女性3.3%となっていました。男性は一貫して上昇し、女性も平成2年以降は上昇傾向にあります。令和2年には男性28.3%、女性17.8%となっています。

図表 50歳時の未婚割合の推移



資料：内閣府「令和4年版少子化社会対策白書」

ⁱ 45～49歳の未婚率と50～54歳の未婚率の平均。

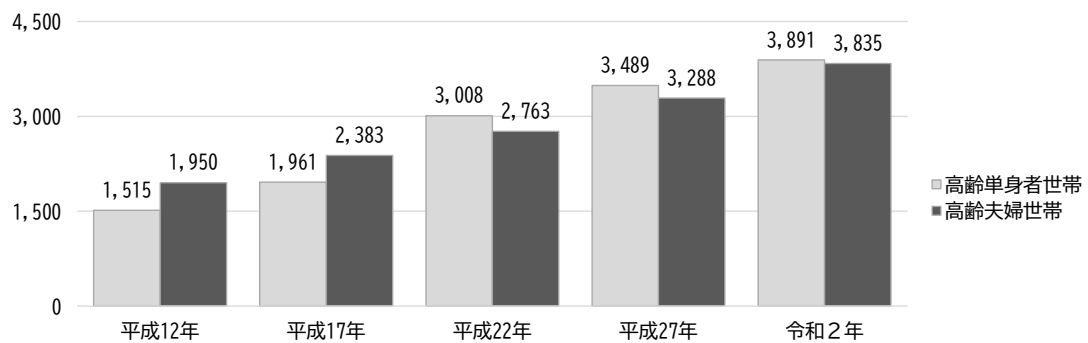
(5) 高齢者の状況

① 単身高齢者世帯数及び高齢夫婦世帯数の推移

高齢単身者世帯数及び高齢夫婦世帯数の推移を見ると、いずれも増加傾向が続いており、令和2年はそれぞれ3,891世帯、3,835世帯となっています。日常生活において、何らかの支援を必要とする世帯が増加傾向にあることがうかがえます。

図表 単身高齢者世帯数及び高齢夫婦世帯数の推移

単位：世帯



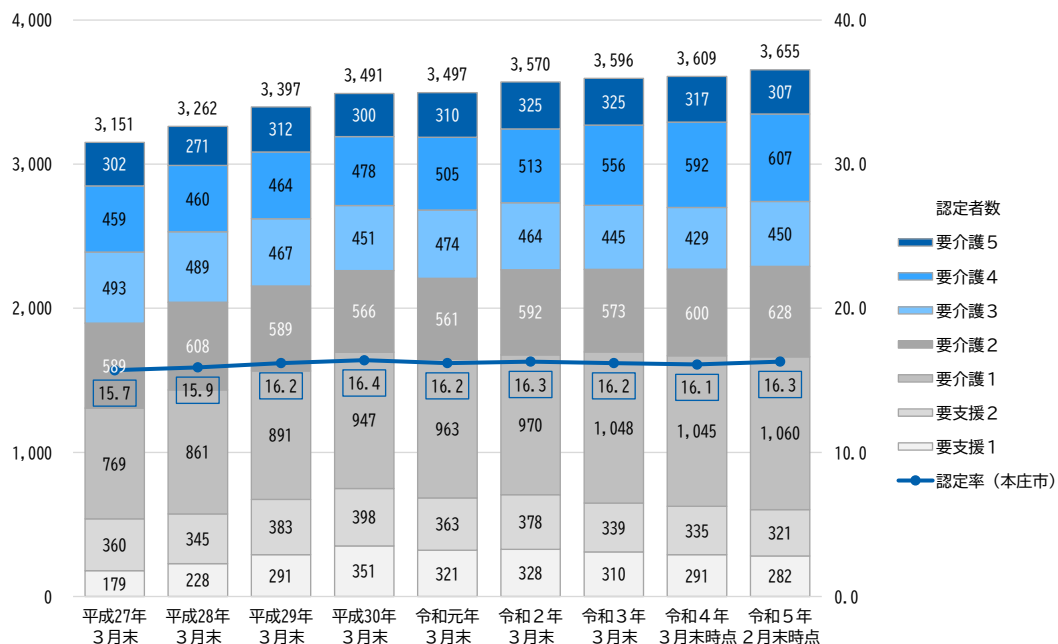
資料：総務省「国勢調査」

② 要支援・要介護認定者数と認定率の推移

要支援・要介護認定者数及び認定率の推移は以下の通りです。高齢化に伴い、認定者数は増加傾向が続いていますが、認定率はほぼ横ばいとなっています。

図表 要介護・要支援者認定数と認定率の推移

単位：人、％

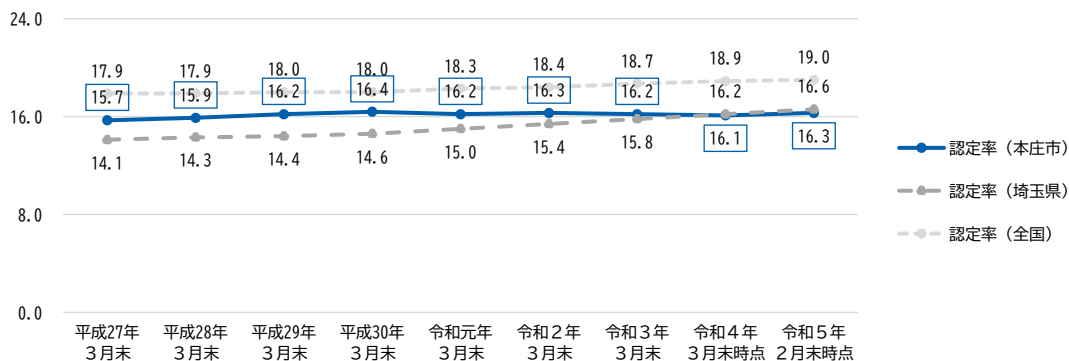


資料：平成26年度から令和2年度：厚生労働省「介護保険事業状況報告（年報）」、令和3年度：「介護保険事業状況報告（3月月報）」、令和4年度：直近の「介護保険事業状況報告（月報）」

本市の認定率を埼玉県及び全国と比較すると、令和4年3月末時点以降では低水準で推移していることがわかります。

図表 認定率の推移と比較

単位：％



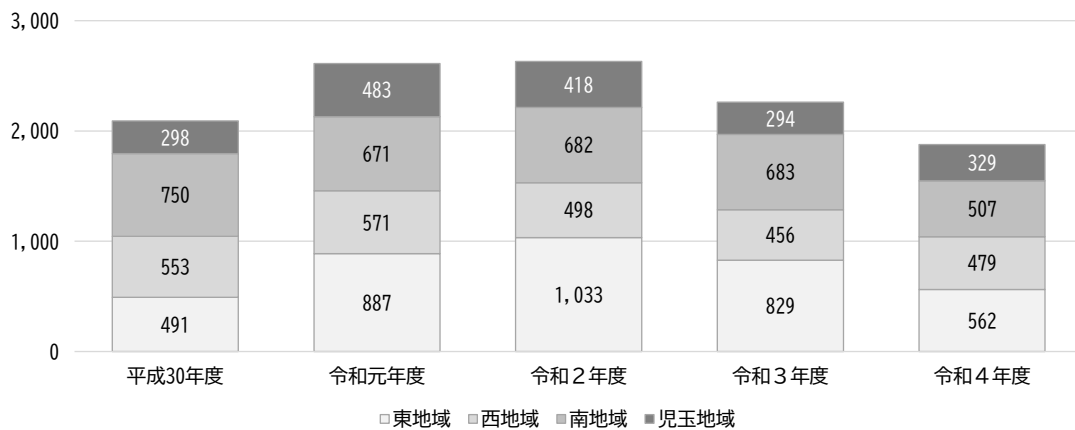
資料：平成26年度から令和2年度：厚生労働省「介護保険事業状況報告（年報）」、令和3年度：「介護保険事業状況報告（3月月報）」、令和4年度：直近の「介護保険事業状況報告（月報）」

③ 地域包括支援センターにおける相談件数の推移

地域包括支援センターにおける相談件数は、令和元年度、令和２年度をピークに減少傾向にあります。

図表 地域包括支援センターへの相談件数の推移

単位：件



資料：高齢者福祉課（各年度３月末時点）

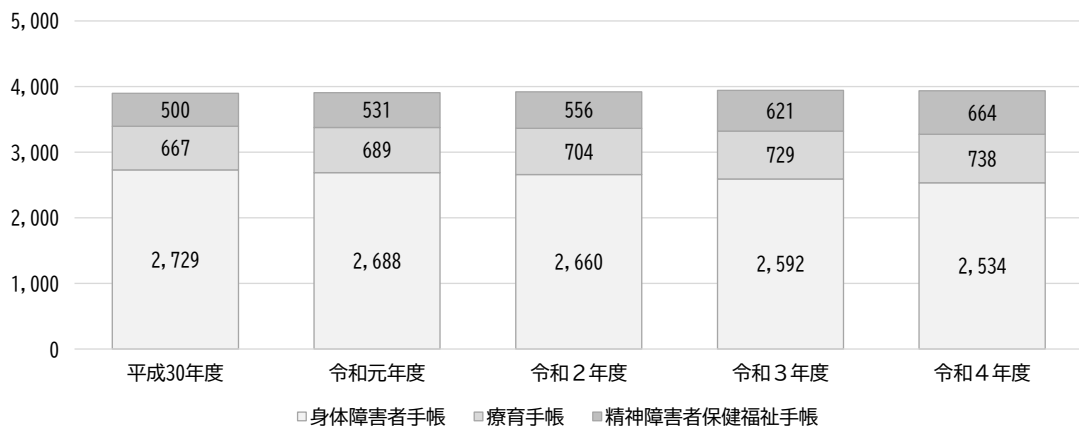
(6) 障害者の状況

① 手帳所持者数の推移

障害者手帳所持者数は、平成30年度以降、4,000人前後で横ばいとなっています。手帳の種類でみると、身体障害者手帳所持者数は減少傾向にあるのに対し、療育手帳所持者数及び精神障害者保健福祉手帳所持者数は増加が続いています。

図表 手帳所持者数の推移

単位：人



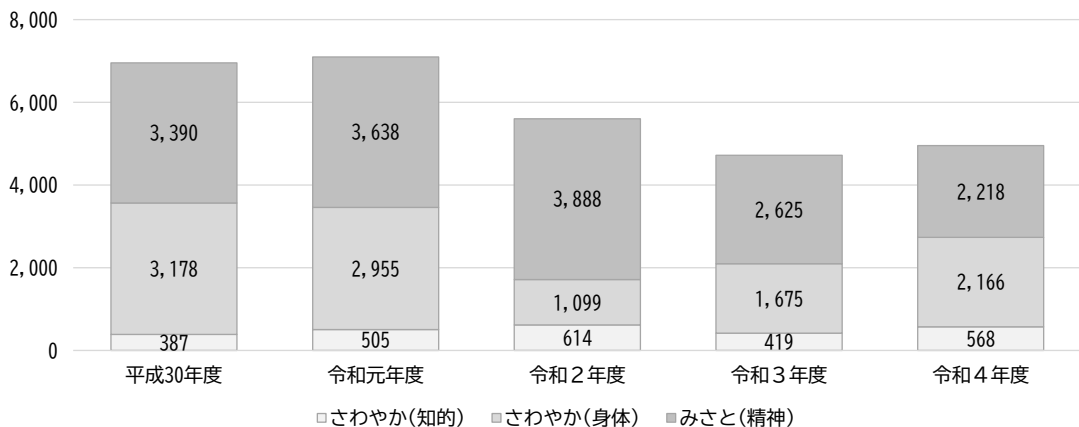
資料：障害福祉課（各年度3月末時点）

② 障害者生活支援センターの相談件数の推移

障害者生活支援センターにおける相談件数の推移は以下の通りです。令和2年度以降、さわやか（身体）での相談件数が増加しています。

図表 障害者生活支援センターの相談件数の推移

単位：件



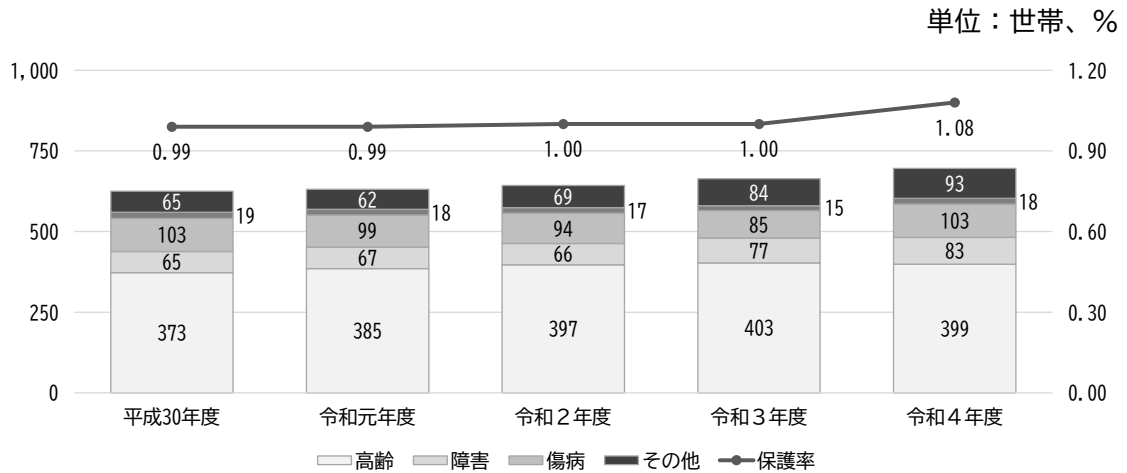
資料：障害福祉課（各年度3月末時点）

(7) その他支援を必要とする人の状況

① 生活保護受給世帯数及び保護率の推移

生活保護受給世帯数はわずかに増加傾向にあります。保護率も令和2年度以降は1.00以上で推移しています。

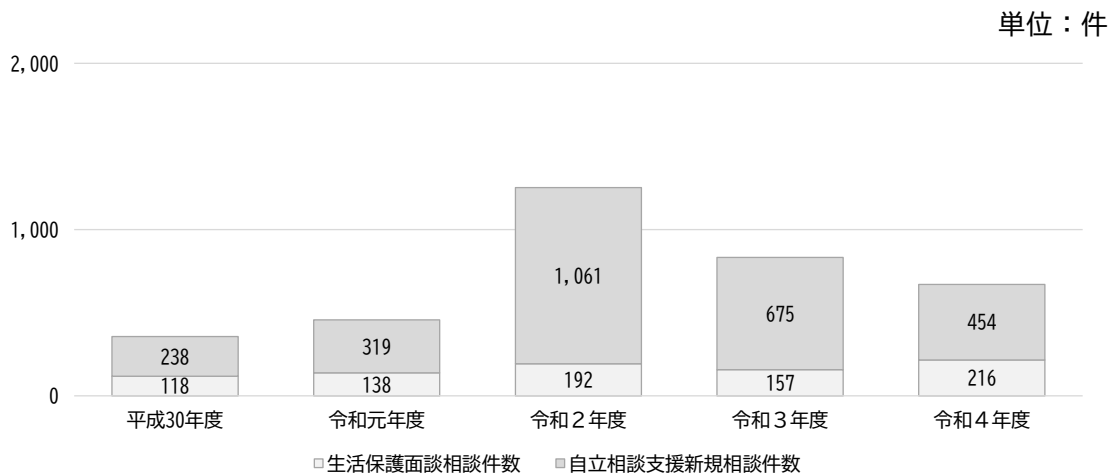
図表 生活保護世帯数及び保護率の推移



② 生活困窮者による新規相談件数の推移

生活保護面談相談件数は、令和2年度に1,061件と急増しており、新型コロナウイルス感染症の拡大が影響したと見られます。

図表 生活保護面談相談件数・自立相談支援新規相談件数の推移



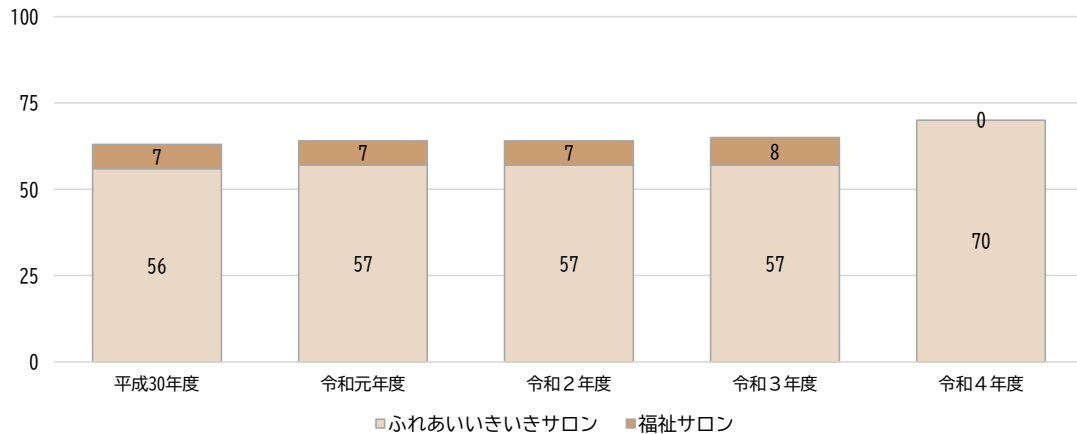
(8) 福祉を支える人の状況

① サロン数の推移

市内で活動するサロン数の推移は以下の通りです。令和4年度から福祉サロンがふれあいいいききサロンに統合され、現在70件となっています。

図表 サロン数の推移

単位：件



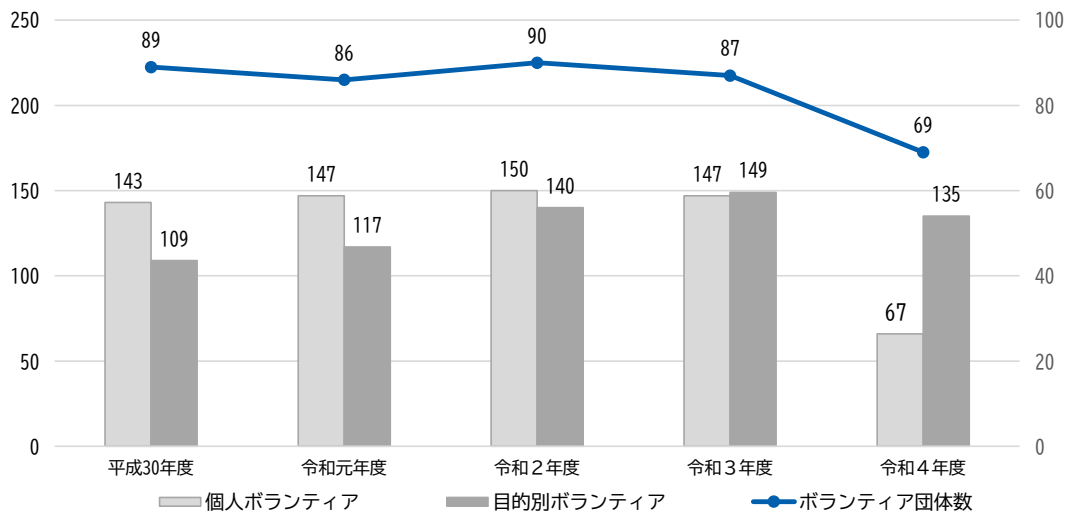
資料：本庄市社会福祉協議会（各年度3月末時点）

② ボランティア数の推移

ボランティア数及びボランティア団体数の推移は以下の通りです。令和4年度は登録更新手続きの影響で個人、団体ともに登録数が減少しています。

図表 ボランティア数及びボランティア団体数の推移

単位：人、団体

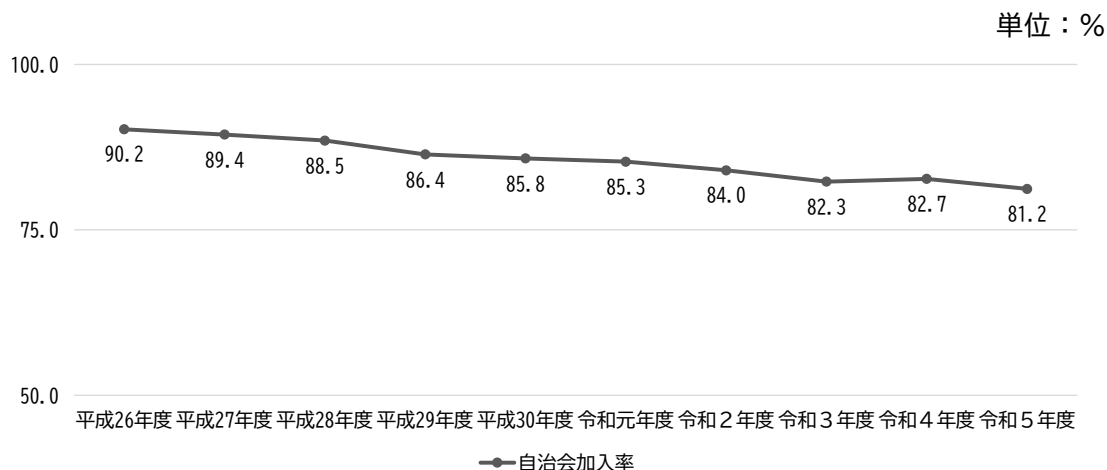


資料：本庄市社会福祉協議会（各年度3月末時点）

③ 自治会加入率の推移

自治会加入率は長期にわたって低下しており、令和4年度には81.2%となっています。

図表 自治会加入率数の推移

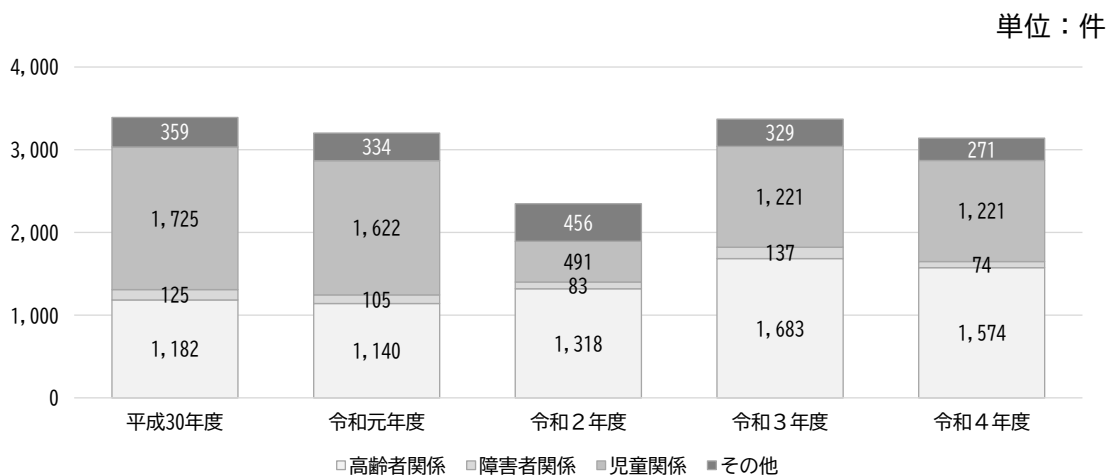


資料：市民活動推進課（各年度4月1日時点）

④ 民生委員・児童委員の活動状況

民生委員・児童委員の活動状況については以下の通りです。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受けて減少したと見られますが、その後は感染症拡大前の水準まで回復しています。

図表 民生委員・児童委員の活動状況



資料：地域福祉課

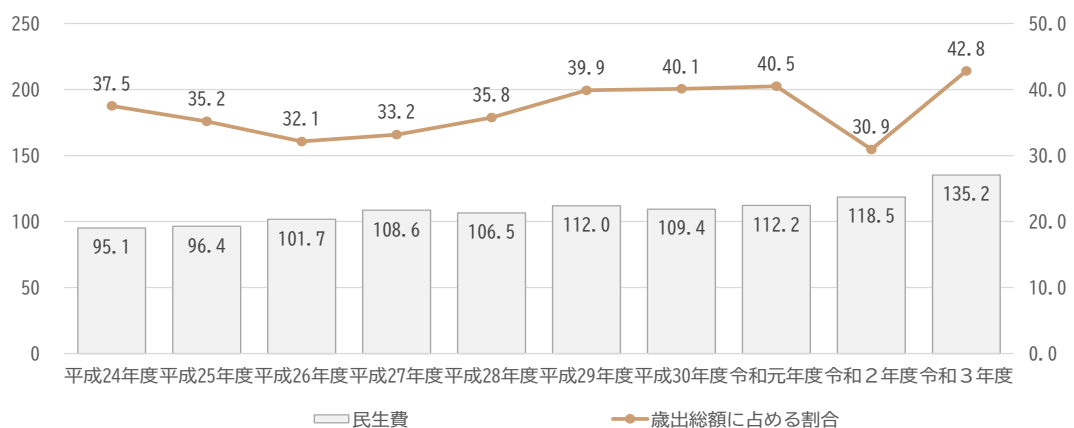
(9) 福祉に関する歳出の動き

① 本庄市一般会計予算における民生費決算

本庄市一般会計予算における民生費決算状況と歳出総額に占める割合については、以下の通りです。民生費は増加傾向が続いており、歳出総額に占める割合も上昇傾向にあります。なお、令和2年度は新型コロナウイルス感染症対応関連の歳出増加(特別定額給付金など)の影響により、民生費の割合が一時的に下がりました。

図表 本庄市一般会計予算における民生費決算状況と歳出総額に占める割合

単位：億円、%



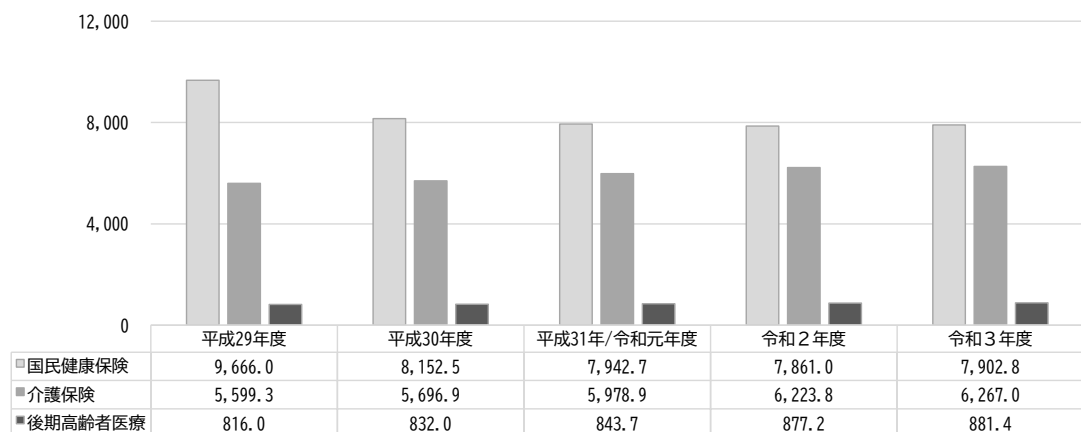
資料：財政課

② 特別会計歳出の推移

各特別会計歳出の推移を見ると、うち最も歳出が多いのは国民健康保険であり、令和3年度には7,902百万円あまりとなっています。介護保険及び後期高齢者医療は、高齢化に伴う歳出の増加が見られます。

図表 各特別会計歳出の推移

単位：百万円



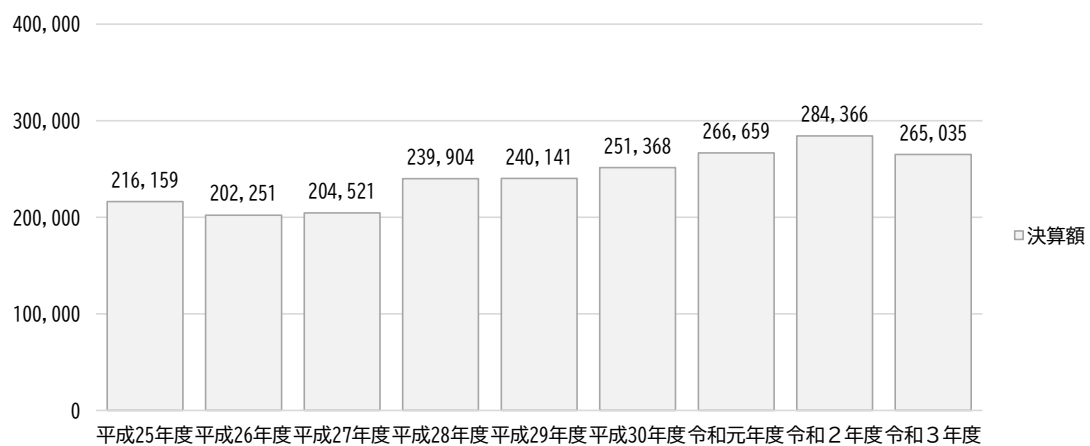
資料：財政課

③ 本庄市社会福祉協議会の決算

本庄市社会福祉協議会の決算状況等については以下の通りです。

図表 本庄市社会福祉協議会の決算額の推移

単位：千円



資料：本庄市社会福祉協議会

第2節 日常生活圏域別に見た福祉の現状

(1) 東地域（本庄東中学校区）の状況

① 地域の概況

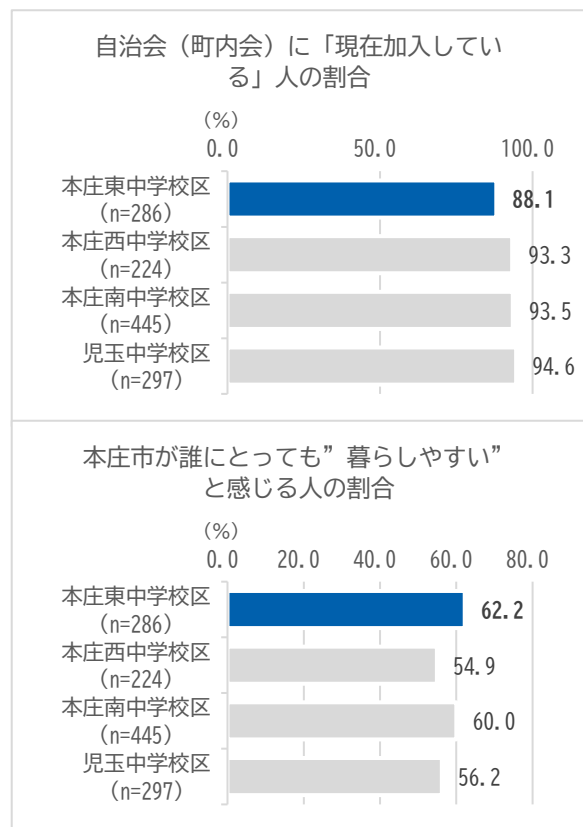
本地域は、本庄東小学校区と藤田小学校区、仁手小学校区（上仁手除く）を含む地域です。北は利根川を挟んで群馬県伊勢崎市、東は深谷市に隣接しています。地域内に国道17号が東西に走り、主に国道以南の市街地（本庄東小学校区）と以北の郊外地（藤田・仁手小学校区）に分かれます。市役所が立地する地域で、人口が集中する市街地では市平均より高齢化率が低く、単身率は高くなっています。また、郊外地は市内でも飛びぬけて高齢化率が高いものの、単身率は平均より低く、対照的となっています。

地域内には私立高校が2校あるほか、市街地を中心に多数の医療機関が設置されています。

② 地域福祉の状況

アンケート調査では、自治会に「現在加入している」と回答した人の割合が最も低く、9割を下回っています。住まいの形態として「民間賃貸住宅（マンション・アパートなど）」を選択した人の割合が最も高く、12.9%となっています。本庄市が誰にとっても“暮らしやすい”と回答した人の割合が最も高く、62.2%を占めています。暮らしの中で感じる悩みや不安として最も高い割合を占めるのは「自分や家族の健康に関すること」（57.0%）となっており、4地域の中でも比較的若い世代の多い地域であることがうかがえる結果となっています。

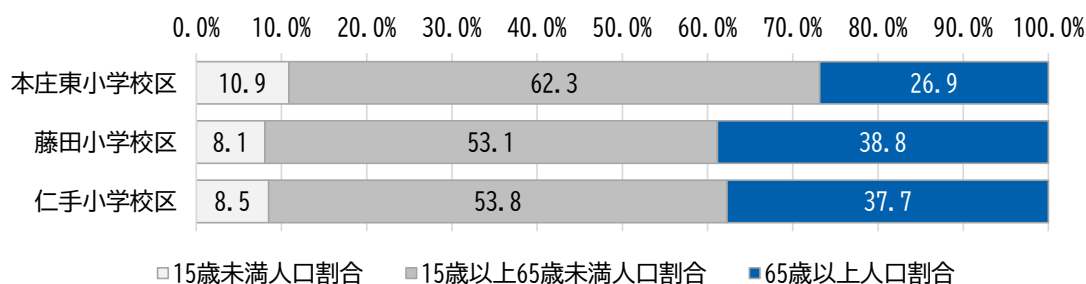
地区懇談会では、「子どもの遊び場が少なくなった」「一人暮らし高齢者が多い」「空き家が多い」「自治会役員のなり手がいない」「魅力が多いのにアピールできていないのではないか」などの意見が寄せられています。



次世代地域づくり会議では、「色々な施設がある」「イベントが多い」「交通手段が多い」「地域の人との交流が多い」などのポジティブなイメージを地域に対して有しているのに対し、「道路が整備されていない」「街灯が少ない」「遊べる場所、買い物できる場所が少ない」「特産品がない」などの意見も寄せられています。

図表 小学校区別に見た年齢3区分別人口構成割合（東地域）

単位：％



資料：住民基本台帳

（注）端数処理により、必ずしも年齢3区分別人口割合の和は100.0%とならない。
仁手小学校区の一部（上仁手地域）は西地域（本庄西中学校区）に算入されている。

図表 統計で見る東地域の状況

		人口	65歳以上人口 (高齢化率)	世帯数
本庄東 小学校区	令和5年5月 時点	13,803人	3,707人 (26.9%)	6,695世帯
	平成30年10月 時点	14,104人	3,620人 (25.7%)	6,388世帯
藤田 小学校区	令和5年5月 時点	2,716人	1,055人 (38.8%)	1,148世帯
	平成30年10月 時点	2,945人	1,098人 (37.3%)	1,187世帯
仁手 小学校区	令和5年5月 時点	1,410人	532人 (37.7%)	611世帯
	平成30年10月 時点	1,541人	527人 (34.2%)	640世帯
東地域 (全体)	令和5年5月 時点	17,788人	5,249人 (%)	8,379世帯
	平成30年10月 時点	18,437人	5,201人 (28.2%)	8,140世帯

資料：住民基本台帳

（注）仁手小学校区の一部（上仁手地域）は西地域（本庄西中学校区）に算入されているため、東地域（全体）の値と小学校区の値の和は必ずしも一致しない。

(2) 西地域（本庄西中学校区）の状況

① 地域の概況

本地域は、本庄西小学校区、旭小学校区、仁手小学校区の一部（上仁手）を含む地域です。市北西部に位置し、北は利根川を挟んで群馬県伊勢崎市、西は上里町に隣接しています。地域の南部を東西に中山道が走り、古くは旧宿場町の中心地として栄えました。現在は、旧本庄警察署や諸井家住宅などの文化財のほか、市立図書館や旧本庄商業銀行煉瓦倉庫、市民活動交流センター（はにぼんプラザ）など交流・文化活動の拠点が点在しています。

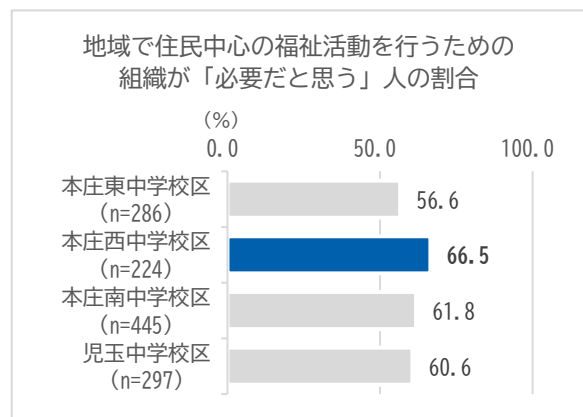
また、中山道に並行して国道17号が走り、大きく分けると国道17号以南の市街地と、国道以北の田畑が広がる郊外地に分かれます。圏域全体では最も高齢化率が高く、特に市街地中心部では少子化と高齢者の単身化が顕著となっています。日常生活圏域で唯一高等学校がありません。また、郊外地は福祉関係事業所が少なく、地域内の医療機関は市街地に集中しています。

② 地域福祉の状況

アンケート調査では、地域で住民中心の福祉活動を行うための組織を「必要だと思う」と回答した人の割合が最も高く、66.5%を占めています。また、地域活動に「できる範囲で取り組んでいきたい」とする人の割合も最も高く（55.5%）、地域活動への関心や意欲が高い地域であることがうかがえます。

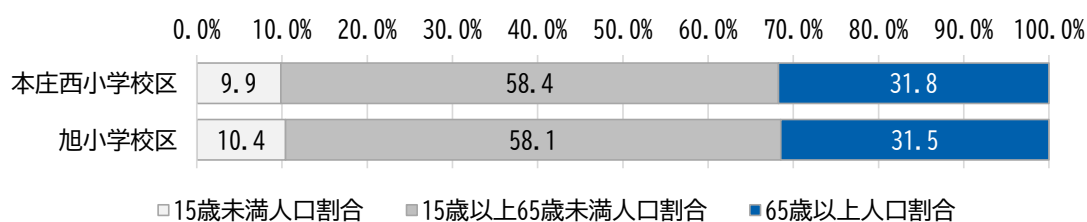
地区懇談会では、「病院が遠い」「本庄の魅力がない」「地域で活動を行う場が少ない」「隣近所とのつながりがない」「災害時の避難場所がない」などの意見が寄せられています。

次世代地域づくり会議では、「大型商業施設などの商業が発達」「自然が多い」「交通の便が良い」「歴史がある」などが地域のポジティブなイメージとして挙げられている一方で、「お祭りの参加者の減少」「観光資源が少ない」「放置された土地がある」なども挙げられており、「計画的な土地利用」や「歴史をつなぐまちづくり」「地域の良さを市民に伝える取り組みが必要」などの指摘も寄せられています。



図表 小学校区別に見た年齢3区分別人口構成割合（西地域）

単位：％



資料：住民基本台帳

（注）端数処理により、必ずしも年齢3区分別人口割合の和は100.0%とならない。
仁手小学校区の一部（上仁手地域）が西地域（本庄西中学校区）に算入されている。

図表 統計で見る西地域の状況

		人口	65歳以上人口 (高齢化率)	世帯数
本庄西 小学校区	令和5年5月 時点	6,674 人	2,119 人 (31.8%)	3,231 世帯
	平成30年10月 時点	6,844 人	2,078 人 (30.4%)	3,076 世帯
旭小学校区	令和5年5月 時点	6,060 人	1,907 人 (31.5%)	2,729 世帯
	平成30年10月 時点	6,134 人	1,745 人 (28.4%)	2,541 世帯
西地域 (全体)	令和5年5月 時点	12,875 人	4,071 人 (31.6%)	6,035 世帯
	平成30年10月 時点	13,131 人	3,867 人 (29.4%)	5,692 世帯

資料：住民基本台帳

（注）仁手小学校区の一部（上仁手地域）が西地域（本庄西中学校区）に算入されているため、西地域（全体）の値と小学校区の値の和は必ずしも一致しない。

(3) 南地域（本庄南中学校区）の状況

① 地域の概況

本地域は、本庄南小学校区、中央小学校区、北泉小学校区を含む地域です。市の地理的中心に位置し、東は深谷市と美里町、西は上里町に隣接しています。JR高崎線本庄駅南に広がる市街地や、JR上越新幹線本庄早稲田駅北側の新たな市街地に加え、美里町や上里町に隣接する郊外地からなります。大規模商業施設をはじめ商店も多く、本庄早稲田駅や関越自動車道本庄児玉ICを擁し、生活上の利便性が比較的高い地域です。人口は増加傾向にあり、高齢化率は市内で最も低くなっています。一方で、新市街地内では高齢者世帯に占める単身率が非常に高くなっているほか、本庄駅南の市街地や上里町隣接地域の高齢化率も比較的高めです。

地域内には、県立高校と私立高校が1校ずつあり、郊外地には私立高校附属中学校と県立特別支援学校があります。また、本庄早稲田国際リサーチパークが設置され、市内学術研究の中心的な地域となっています。地域内に比較的万遍なく福祉関係事業所が設置されているほか、多数の医療機関が存在し、在宅医療拠点である保健センターも設置されています。

② 地域福祉の状況

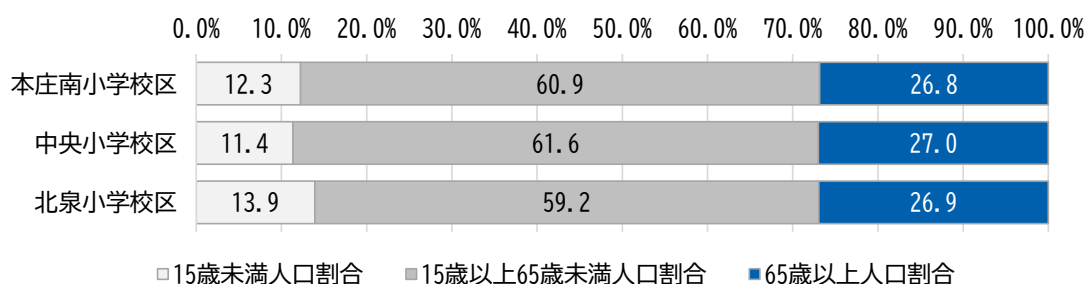
アンケート調査では、「夫婦のみ世帯」が31.7%と他の地区よりも高くなっています。地域での課題として「生活環境改善が不十分」が最も多く、18.4%となっています。また、近所の人にサポートしてほしいこととして「見守り・安否確認の声かけ」が第1位となっています。

地区懇談会では、「民生委員や自治会との情報交換が少ない」「自治会活動が住民に伝わっていない」「空き地が多い」「地域区分（区域）がわかりにくい所がある」「地域活動を担う人の世代交代が必要」「地域でボランティアをしたい」などの意見が寄せられています。

次世代地域づくり会議では、「犯罪が少ない」「交通が発達している」「買い物が便利」などのポジティブなイメージを地域に対して持っているのに対し、「道路が狭い」「観光資源が少ない」「ゴミが散乱している」などの課題も挙げられています。

図表 小学校区別に見た年齢3区分別人口構成割合（南地域）

単位：％



資料：住民基本台帳

（注）端数処理により、必ずしも年齢3区分別人口割合の和は 100.0%とならない。

図表 統計で見る南地域の状況

		人口	65歳以上人口 (高齢化率)	世帯数
本庄南 小学校区	令和5年5月 時点	8,479 人	2,276 人 (26.8%)	3,956 世帯
	平成30年10月 時点	8,280 人	2,123 人 (25.6%)	3,574 世帯
中央 小学校区	令和5年5月 時点	11,807 人	3,187 人 (27.0%)	5,803 世帯
	平成30年10月 時点	11,712 人	3,030 人 (25.9%)	5,411 世帯
北泉 小学校区	令和5年5月 時点	7,158 人	1,928 人 (26.9%)	3,221 世帯
	平成30年10月 時点	6,826 人	1,752 人 (25.7%)	2,922 世帯
南地域 (全体)	令和5年5月 時点	27,444 人	7,391 人 (26.9%)	12,980 世帯
	平成30年10月 時点	26,818 人	6,905 人 (25.7%)	11,907 世帯

資料：住民基本台帳

(4) 児玉地域（児玉中学校区）の状況

① 地域の概況

本地域は、共和小学校区、児玉小学校区、金屋小学校区、秋平小学校区を含む地域です。旧児玉町域であり、南は皆野町、東は美里町、西は神川町に隣接しています。南北に長く広い地域で、JR八高線児玉駅を中心とする市街地と、その周辺に広がる郊外地、地域の南部に位置する山間地からなります。

それぞれ、人口や生活上の利便性に格差が見られ、特に山間地では過疎化の傾向も顕著で、交通をはじめとした福祉課題が顕在化しています。地域全体での高齢化率は30%程度となっていますが、小学校区によって差が大きく、秋平小学校区では34.6%と、3人に1人以上が高齢者となっています。県立高校が1校あるほか、福祉関係事業所や医療機関が市街地及び一部郊外地に配置されていますが、山間地にはほとんど配置されていません。また、山間地においては、土砂災害等の発生リスクが高い地域でもあります。

② 地域福祉の状況

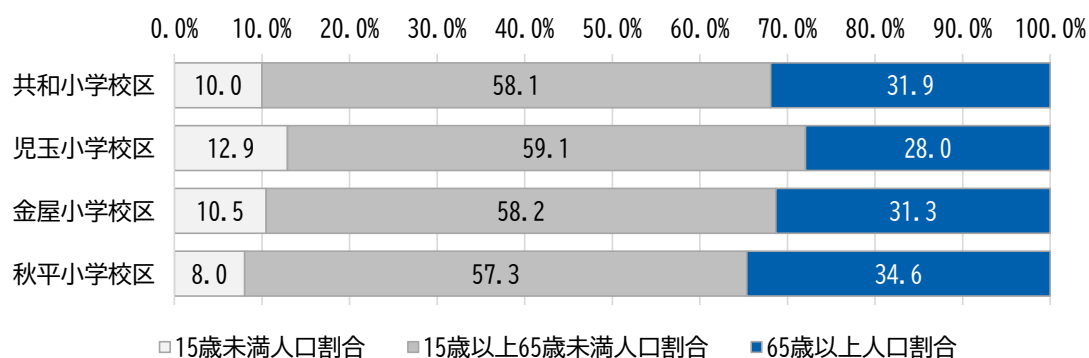
アンケート調査では、近所付き合いの程度が深い人が比較的多い地域であり、「会えば親しく話をする人がいる」は38.7%と4地域で最も高い割合となっています。また、民生委員が誰か知っている人が多く、社会福祉協議会の認知度も高いことから、地域でのつながりが強く、福祉への関心が高い地域であることがうかがえます。地域のよいところとして、「住民の生活マナーがよい」を挙げる人が最も多くなっています。

地区懇談会では、「車がないと移動できない」「買い物をする店がない」などの意見が多く寄せられ、日常的な移動や買い物に課題を抱える人が多い地域であることがうかがえます。また、農業の後継者不足や耕作放棄地の増加なども課題として多く挙げられています。近所同士の交流が少ないという意見も提出されました。

地域内の中学生や高校生からは、「緑が豊かで住みやすいのどかなまち」「地域の人たちが優しい」などのポジティブなイメージを持っている反面、「安全な道路が整備されていない」「買い物をするのに遠い」などの意見がありました。

図表 小学校区別に見た年齢3区分別人口構成割合（児玉地域）

単位：％



資料：住民基本台帳

（注）端数処理により、必ずしも年齢3区分別人口割合の和は100.0%とならない。

図表 統計で見る児玉地域の状況

		人口	65歳以上人口 (高齢化率)	世帯数
共和 小学校区	令和5年5月 時点	3,960人	1,264人 (31.9%)	1,820世帯
	平成30年10月 時点	4,100人	1,189人 (29.0%)	1,771世帯
児玉 小学校区	令和5年5月 時点	7,590人	2,122人 (28.0%)	3,408世帯
	平成30年10月 時点	7,728人	2,065人 (26.7%)	3,225世帯
金屋 小学校区	令和5年5月 時点	5,128人	1,606人 (31.3%)	2,296世帯
	平成30年10月 時点	5,390人	1,495人 (27.7%)	2,244世帯
秋平 小学校区 (本泉小学校区 含む)	令和5年5月 時点	2,708人	938人 (34.6%)	1,220世帯
	平成30年10月 時点	2,853人	932人 (31.9%)	1,131世帯
児玉地域 (全体)	令和5年5月 時点	19,386人	5,930人 (30.6%)	8,744世帯
	平成30年10月 時点	20,071人	5,201人 (28.2%)	8,351世帯

資料：住民基本台帳